

第73回「社会を明るくする運動」 岩倉地域3学区合同ミニ集会開催

各位

令和5年6月吉日

岩倉保護司会
岩倉地区更生保護女性会

令和5年度

「社会を明るくする運動」岩倉ミニ集会 開催のご案内

梅雨の季節になりましたが、皆様にはますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。日頃は、地域の保護司会並びに更生保護女性会の活動にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて、下記の通り、令和5年度「社会を明るくする運動」の一環として、岩倉地域3学区合同でミニ集会を開催させていただきます。今年度は、左京区で2017年に「こども食堂」Tera.Coyaを開設、運営に従事されている京都 Tera.Coya 代表の小林光長氏と叡山電鉄運転手として勤務されながら2020年夏から学習支援担当として「こども食堂」Tera.Coyaに参画されている大脇晋太郎氏をお招きしてお話をさせていただきます。

子どもたちにとって居場所と繋がりは、成長や自己肯定感を育むために欠かせません。こども食堂が創り出す居場所と繋がりの力について学びたいと思います。

記

日時 7月9日(日) 午前10時～11時30分
場所 岩倉地域交流センター
内容 講師 小林光長氏(京都Tera.Coya代表)、大脇晋太郎氏
演題 「こども食堂から学ぶ」

小林光長氏(京都Tera.Coya代表)

1983年長野県松本市生まれ。10代のほとんどを矯正施設や民間の更生施設で過ごす。少年院の中で大学入学資格検定に合格し、その後暴走族仲間や非行少年たちに勉強を教え大検を取得させる。その後専門学校と大学を卒業。公認心理士・社会福祉士取得を目指す大学在学中に子ども食堂の存在を知り、学生を組織し京都市内の子ども食堂に継続的に関われる活動を開始。2017年頃より「食」を通じた居場所と関係性を重視した学習支援併設型の子ども食堂を開始。



大脇晋太郎氏

明石北高校→青山学院大学卒。日本貨物鉄道(JR貨物)入社後、転職し叡山電鉄に。現在、叡山電鉄で運転士として勤務。自身が14歳で父親が蒸発した経験があり、とても大学進学までは望めない境遇であったが、中学時代の恩師らの厚意によって、公立の進学校に入学。高校時代には民生委員、兵庫県社会福祉協議会の奨学金により大学に入学。経済状況を汲んでもらい奨学生として授業料の大幅な減額を受け、国立大学と大差ない費用で卒業。京都 Tera.Coya には前述の奨学金の支払いを終えるのを機に自分記念として2020年夏から参画。学習支援担当として継続中。また、同年冬、市内の公立中学の放課後学習会に講師として在籍しており、こちらも継続中。

参加ご希望の方は担当までご連絡をお願いいたします。

天鷲忠勇 090 2599 4650 岩瀬信明 090 3352 6013 榎木 稔 090 5066 4835
柴田敬子 090 8208 1460 岸野容子 090 1157 7574

日時: 令和5年7月9日(日)10時00分～11時30分

場所: 岩倉地域交流センター会議室

講師: 小林光長氏 大脇晋太郎氏

演題: 「こども食堂から学ぶ」

「こども食堂」Tera-Coya の運営に従事されている代表の小林光長氏と学習支援担当として Tera-Coya に参画されている大脇晋太郎氏をお招きして『こども食堂から学ぶ』と題して講演をしていただきました。当日は生憎、雨日和でしたが59名の参加があり、会場はほぼ一杯になりました。



中学校の時、家出をしてから公園や駅で野宿していたという小林代表。

14歳の時父親が蒸発した大脇氏。

数奇な過去を経験された、お二人が京都市左京区で力を合わせて運営されている、学習支援併設型のこども食堂「Tera-Coya」



代表の小林氏は、暴走族のリーダーにボコボコにされたあと、たまたまその日がリーダーと同じ誕生日だったことから暴走族の仲間に誕生日を祝ってもらったことで、皮肉にもその時、はじめて自分の居場所ができたことを実感したとのこと。

大脇氏は堀川高校で使っている問題集を子どもたちに使わせているとのこと。自らの体験をもとに、貧乏だから勉強ができないのではないという意気込みで子どもたちに接している。

凄まじい過去の話や、真っ直ぐに進もうとするお二人の心に触れ、密かに涙が頬をつたった。

約1時間にわたり、こども食堂、過去の生い立ちについてのお話を聞きし、話を聞いた。

以前、代表に会うために伺った「Tera-Coya」で、見た子どもたちは、抱きついたり、叩いたり、はしゃいだり、引っ張ったり、大好きなお兄ちゃんから離れようとしません。

自分の境遇を相談できず苦しんでいることも。

自らが体験した「心の孤立」そして自分たちを救ってくれた民生委員をはじめとする周囲の方々、少年院の人たち。

こども食堂とフリースクールを隔週で開催することで、食や学びでコミュニケーションが深まり、親でも学校の先生でもない年齢差のある人たちとの斜めの関係の必要性を支援者に伝えている。

本音を言えない子どもに寄り添うことで、こどもたちの本音が出てくる。

京都市においては平成2年に6人に一人が生活困窮家族と報告されている混迷を深める世の中にあって、地獄を見たであろう二人が、未来に向けて子どもたちと繋がりを持ち続けている生き様に接し感銘を受けた。

講師お二人のお話は、体験に基づいたもので、参加者の心に響き、講演後たくさんの感想が寄せられた。

参加者：(順不同・敬称略)

- ・左京区社会福祉協議会 事務局長 木俣紀子
- ・左京区BBS会、会長 出口 花
- ・左京区保護司会会長 上野 修
- ・岩倉北女性会会長 柴田敬子
- ・岩倉北社会福祉協議会会長 金田光雄
- ・岩倉北民生委員会会長 高橋久美子
- ・岩倉北少年補導支部長 原田幸一
- ・岩倉明德自治連合会会長 岩淵信明
- ・岩倉女性会会長 伊佐妙子
- ・岩倉明德保険協議会会長 片田住夫
- ・岩倉明德民生児童委員協議会会長 川島松平
- ・岩倉南民生児童委員協議会会長 藤本範子
- ・市議員 熊澤真昭
- ・市議員 隠塚 功

参加者合計59名(保護司7名含)

参加保護司：天鷲忠勇、上野 修、岩淵信明、柴田敬子、
榎木 稔、加納正博、大西繁雄(順不同・敬称略)

研修会開催に際しまして、

参加者への消毒・検温・連絡先確認・マスク着用コロナ対策として細心の注意で臨みました。

地域幹事：天鷲忠勇

写真：加納正博

文責：上野 修